

2014年度多文化施策懇話会 第2回会議

フィリピンにつながる子どもと親 サポート実践の報告

京都市でいま、考えたいこと

2014年9月9日
内田晴子

フィリピン系の子どもたちと学ぶ会 / SamaKaBatangPinoy

今日のおはなし

1. A小学校日本語教室とのいきさつ、サポート活動
2. いま増えている、フィリピン系のこどもたち
3. なぜ、増えている？ 「在留資格」「国籍」
4. こどもたちの困り、(元)こどもたちの体験談
「アイデンティティ」「文化適応」
「ことばと学習」「進学と将来」
5. 保護者の困り
6. まとめ

1. いきさつ



学習支援＋母語での適応支援＋保護者のサポート

3年間、どんなことをした？

- 学習支援（入り込み、取り出し、放課後）のべ 時間
- 母語でのサポート
- 保護者向けの企画
- 市内のフィリピン人の子育て経験者をつなげる
- 職員室での給食（240円でコミュニケーション）
- 学校指導課との意見交換

ひろがり

たけのこ会
(学習支援)

KokoKids
(おやこ学習・多文化活動)

フィリピン人の子
育て経験者たち
(たぶんか講師、
経験を話す、
通訳 など)



A小学校



B中学校

いきいき市民活動センター
→大人の日本語活動？
→地域への受容？

京都大学 文学部
(担当:安里)
学習支援とフィリピン
実習で単位化

海外フィリピン人委員会(CFO)
フィリピン政府の海外送り出し
機関、小中学校訪問

2. いま 増えている、 フィリピンからのこどもたち

- ・京都市の実態調査にみる変化

2007年調査(2007年7月末)

→2012年調査 (2013年1月末)

- ・文部科学省「日本語指導が必要な」小中学生の変化

フィリピン諸語話者のみがふえている

海外帰国生徒を除く日本国籍者

前回比37%増 4662人

3. なぜ 増えている？

在留
資格

国籍

2009年 国籍法が新しくなりました
こどもの日本国籍がとりやすくなりました

在留資格

1. (旧)日系人
=太平洋戦争前・戦中に
フィリピンへ渡った日本人の子孫
2. 「日本人の配偶者」である母の連れ子
日本人の継父との養子縁組
3. 新日系人
=70年代末以降に増えた、日比
の国際結婚などの子
(婚内子・婚外子とも含む)
4. 「未成年の新日系人の保護者」である母の子

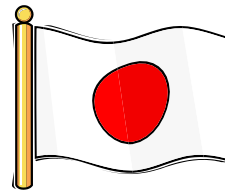
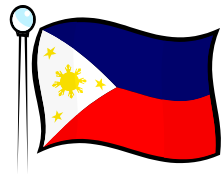
国籍

2009年「改正国籍法」施行

- ☆ 未届や婚外子などの理由で、日本国籍を取得できなかった子ども(新日系)にも「**生後認知**」で国籍取得の途が開けた
- ☆ 日本に6か月滞在後、申請できる
- ☆ 養子縁組では日本国籍とならない。
一定期間を経てから帰化手続
- ☆ 重国籍を認めているフィリピン
(日本国籍取得のために)元の国籍を破棄しても、「再取得」できる

「なんで京都に来たの？」 ～実は、京都が呼び寄せた

<push要因>



人の移動

<pull要因>

人手不足(介護業界など)
人手不足(飲食接客業界:
「興行査証」の厳格化)

改正国籍法(2009)の利用

→「日本ルーツの子どもと
その保護者」という組合せ
「すぐにやめない長期人材」
が欲しい!

人材あっせん業者が、
フィリピンでのリクルートを
活発におこなっている!

国策として、人材送り出しを奨励
社会的上昇機会の少なさ
経済格差の固定化

(保護者)

国籍法の改正

→経済的自立のチャンス

→日本ルーツの我が子の将来

4. こどもたちの困り、わたしたちの課題

アイデンティティ

文化適応

学習

進学と
将来

アイデンティティ

「結局、ナニ人なん？」

国や周りが決めるのではなく、本人が育むもの
揺れるのは当たり前、それを支えるのが大人の役目

「日本国籍」＝「日本人」!? 親の想い、子の想い

→ 教員や支援者は やわらかい発想で！

→ 言語、人種、将来キャリア・・・多様な「日本国籍者」の時代

→ この子たちが京都にもたらす豊かさ、潜在的な力

ハーフ → ダブル

「ジャピーノ」 → JFC (Japanese-Filipino Children)

日比混血児／婚外子 → 新日系フィリピン人

フィリピン系日本人 Filipino-Japanese

ミックスルーツ Mixed-Roots

文化適応

「意外と、知られてません」

- 宗教(イスラーム、キリスト教諸派)

- 食べ方(スプーンとフォーク、手)

- 名前の仕組み、愛称

Haruko Christina Santos-Uchida

「ヤマダさん」と結婚したら

→ Haruko Christina Uchida-Yamada

日本では「内田晴子」

- 入浴・朝シャワー、
など

ことばと学習

「親と、話つうじへん(T_T)」

- 低年齢で来日すると、どんどん忘れる
受験期、思春期に、親と意思疎通ができない
- 母語保持の重要性(とくに学力との相関)
→普通の親は知らない、学校から情報提供を！
- 多言語社会からきて、母語も多様
- 学力格差(京都市実態調査・2012年度)
- 教育格差(全国・国勢調査のデータ)
- 近年の来日は、ひとり親家庭が多いことに留意

京都市の「外国人」教育

70年代末～90年代

「基本方針(試案)」('81)

「外国人教育方針」('92)

「日本語教室」増加

在日コリアンに
向き合う

中国系のための
日本語 はじまる

2000年代後半

初の
「実態調査」
「教育長通知」('07)

初の「フィリピン系が多い
日本語教室」('09)

他のルーツにも
向き合おう...

日本語体制 充実へ?
中国系は母語施策も

2014

「日本語教室」再編成

初のフィリピン人
「母語支援員」

やっと ...

在日コリアン

中国帰国者
の子ども

南米日系

フィリピン
日系

2009!

2014 文科省
日本語「特別の教育課程」
成績評価の対象に

これまでとは 違う ～フィリピンは多言語

- 国語 フィリピン語
- 公用語 フィリピン語と英語
- 8つの主要言語

タガログ（≒フィリピン語）

セブアノ

ビサヤ（諸語）

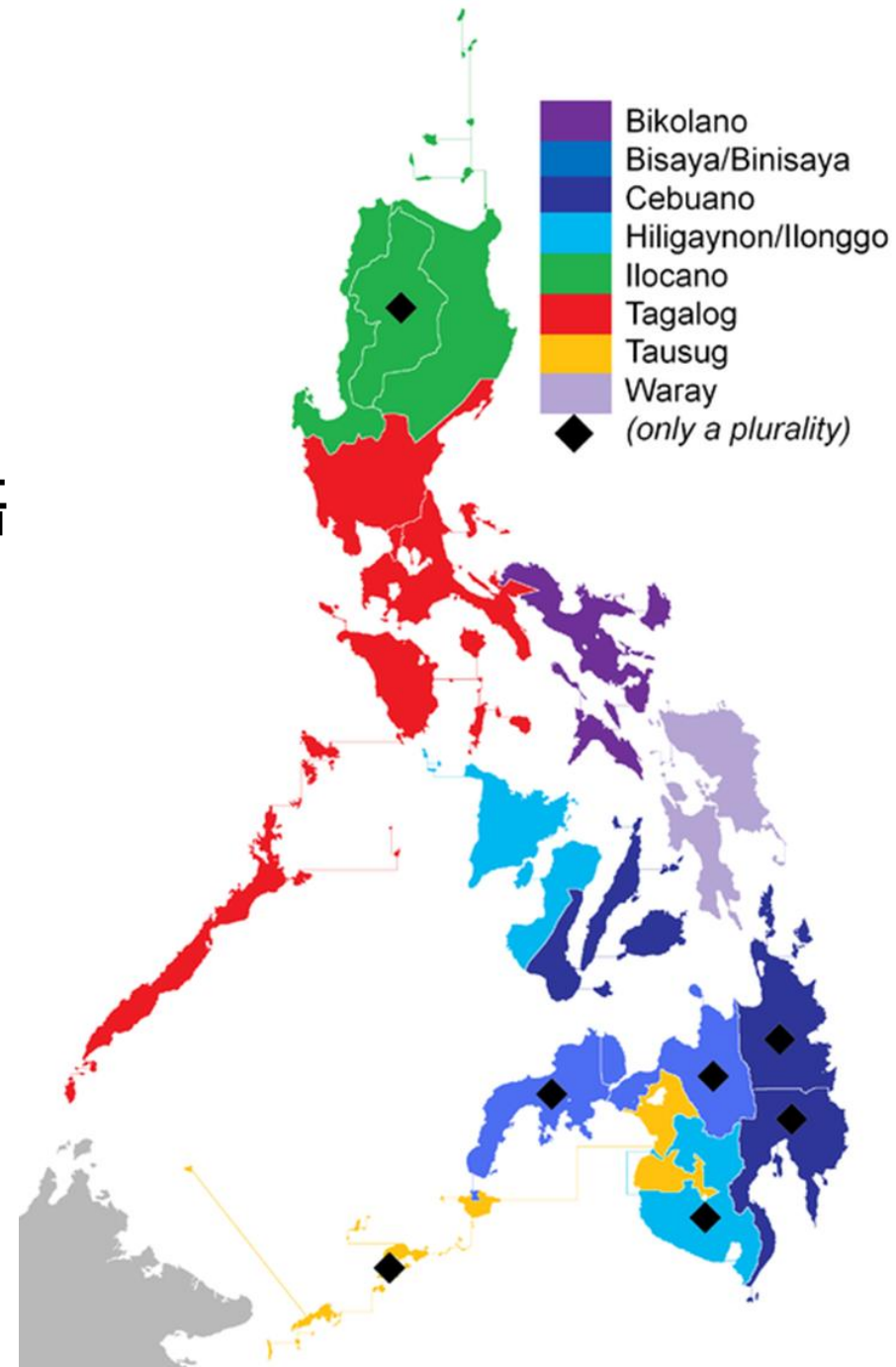
イロカノ

イロンゴ

ビコラノ

タウスグ

ワライ



こどもの通学歴、移動歴をたしかめよう

2012年から、K-6-4-2制に変わりました
多言語基礎教育

「多言語こそが社会をつよくなる」

①母語を基礎とする多言語教育

Mother-tongue-based multilingual education

MTB-MLE

②第一言語(母語)

そして第二言語(フィリピン語)、第三言語(英語)へ
就学前から3年生までは

全科目(フィリピン語・英語を含む)の
指導言語として、第一言語(母語)を使用

こどもの母語を たしかめよう

(2012年度)

Bahasa Sug

Bikol

Cebuano

Chabacano

Hiligaynon

Iloko

Kapampangan

Maguindanaoan

Meranao

Pangasinense

Tagalog

Waray

Magandang Umaga!

Muyang kaldaw!

Maayong adlaw!

Masantos ya agew!

Mapiya kapipita!

Buenas dias!

Maupay!

Assalamu alaykum!

Please circle your child's first language...

進学と 将来

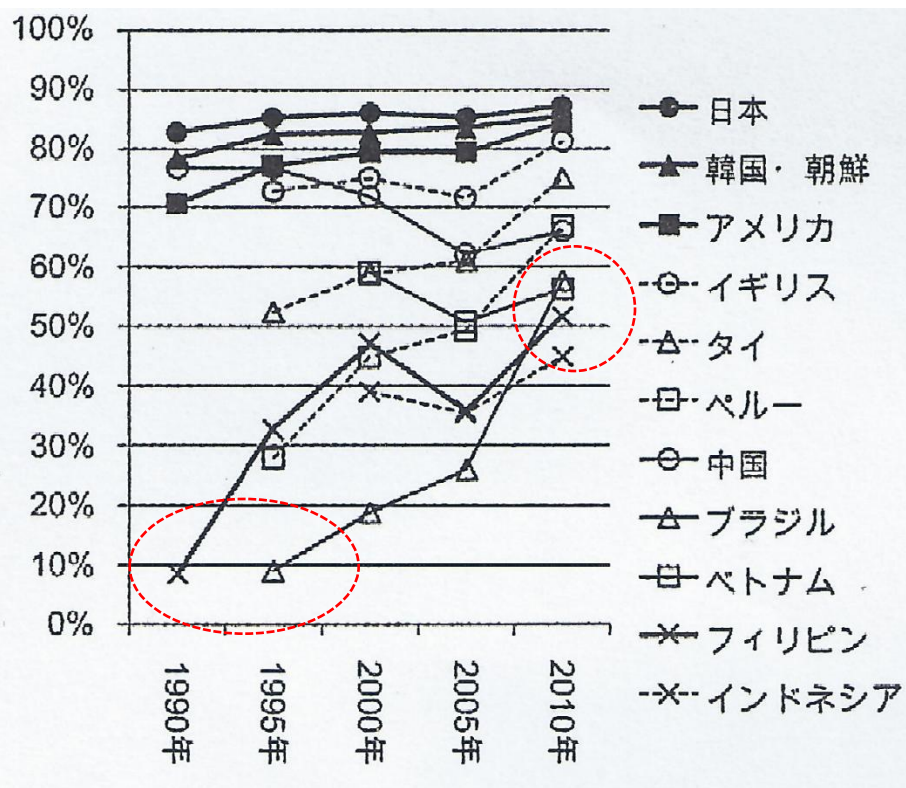
- こどものもっている資源を生かす、「日本型」モデルに拘らない
- 多様な選択肢と戦略の可能性（日本の教育、無駄にならない！）
- 国籍による教育格差、見えてきました（国勢調査データより）

- 高校入試の多様化、外国出身者特別枠は必要
 - 京都府・市にはない！（配慮は限定的）
 - 文科省は受け入れ奨励の姿勢、通知

- 高校進学できない、卒業できない子の多さを「仕方ない」と見て見ぬふりをしないために・・・

国籍による教育格差 みてきました

国勢調査にみる15-19歳の通学率
(通学の傍ら仕事を含む)



- フィリピン籍とブラジル籍の15-19才は、高校通学率が著しく低い

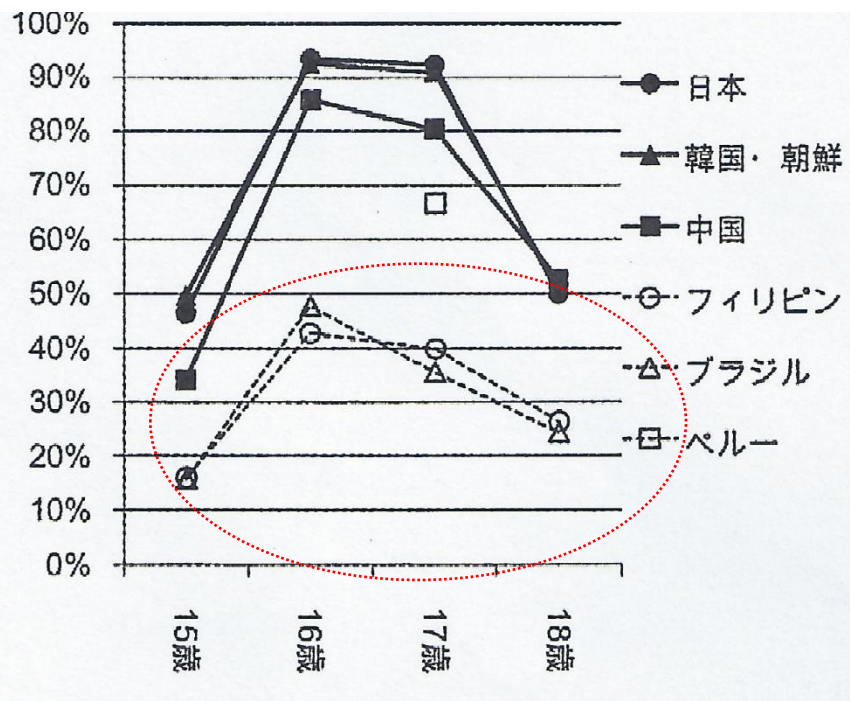
- 1990、95年は10%
2010年は50%台

- ブラジル籍とフィリピン籍の子どもの進学率の低さが最大の課題

(鍛治 2014:7)

国籍による教育格差 みてきました

2000年国勢調査にみる高校在学率
(5年前から日本にいる者のみ)



(鍛治2014:6)

- 日本籍、韓国・朝鮮籍の16, 17歳は90%が高校
- 中国籍は80%台
- フィリピン籍、ブラジル籍は40%前後
- ブラジル籍は退学率も高い

日本に暮らすJFCの層の厚さ ～フィリピンに暮らすJFCはもっと多い



日本に暮らすJFCの層の厚さ ～フィリピンに暮らすJFCはもっと多い



舂ノ山大晴



高安晃



高橋祐治

その他、
プロ野球選手、卓球選
手、柔道選手・・・
小中高の教員も・・・

こども期に日本への移動を経験したJFCの 声

(原の調査による)

【小中学校での成功体験】

・熱心な先生との出会い

e.g. 国際教室の先生、社会の先生、ALTの先生など

・英語を資源にできた

→生かせる制度と機会を与えてくれた先生がいた

e.g. 英語スピーチコンテスト、英語を使った入試

・クラブ活動での成功体験

e.g. 部長になる、優勝する

こども期に日本への移動を経験したJFCの 声

(原の調査による)

【小中学校 いやな思い出】

・クラスの中での孤立

e.g. 総合学習の時間に先生がスモーキーマウンテンの強烈なビデオを見せた

e.g. 男子に「なれなれしい」と言われて嫌われた(本人:女子)

(→中学にしてジェンダー役割期待が強すぎる。)

・先生との確執

e.g. フィリピンの大学に進学することへの反対。

高1から面倒を見てくれた熱心な先生は「お前なら国立大学に行ける」と応援してくれていたが、オープンキャンパスで受けた英語の授業が面白くなく、フィリピンの大学に進学することを決意した。先生からは落胆された。

e.g. 生活指導の先生とのバトル

ピアス、香水、くるぶしソックス、髪型などいちいち指摘された。

本人は「外国人だから目を付けられていた」と感じていた。

こども期に日本への移動を経験したJFCの 声

(原の調査による)

【家庭内に関して】

・実父、継父との関係

e.g. 無口な人で全然喋らない。

e.g. 「一緒にお風呂に入ろう」と執拗に迫ってきた

e.g. 経済的に母に頼っており、高校進学後自分のバイト代も徴収された

・母との関係

e.g. 「勝手につれてきた／返された」
自分の意思を尊重されなかったことへの怒り

e.g. 長年一緒に暮らしてこなかったことへの反発(娘の方が強い)

「自分の思ってたお母さんと、お母さんの思っていた自分が違った」

e.g. 何かあるとすぐに「フィリピンに帰れ！」という脅し文句

(実際に母が扱いきれない問題を子が抱え、フィリピンに帰国させられたケースも多い。)

日本で生まれ育ったJFCの声

【よかったこと】(小学校)

- 担任の先生がフィリピンに関する事を何気なく聞いてくれた時は、自分の事に興味を持ってくれてるんだと嬉しく思いました。
- 朝なかなか起きなかった私に母が怒り、もう学校に行かせないと小学校に連絡をした事がありました。(日本人のお母さんだと、こういう事はないかな?)その時に、誠実に対応してくださった担任の先生は印象に残ってます。

日本で生まれ育ったJFCの声

【嫌だったこと】

保育園

卒園式の写真撮影の日にお休みした時に、保育園の先生が家まで迎えに来た事がありました。

母は当時、夜に仕事をしていたので朝保育園に送った後、午前中は寝てる事が多かったんですが、その日も寝ていました。

保育園で先生達が、その事を悪く言っていたのを聞いてしまい、すごく悲しかった事を覚えています。

小学校

授業中に私の家で新聞をとってない事と、車を持っていない事について、どういう風に生活してるの？と、みんなの前で言われた時は、嫌な気持ちになりました。

日本で生まれ育ったJFCの声

【家庭に関して】

- ・どちらかというと、周りと自分の家は違うんだなあ、と自分の中で気にしていた。
- ・母親がフィリピン人ということが、恥ずかしい気持ちがあった。
- ・(大学進学に関して)お金もないし無理に行かなくてもいいよ、と言われてたら諦めていた。母親が進学は当然という態度だったのと、母親が頑張っていたので、自分も頑張れた。

5. 京都市の (新規来日)フィリピン人保護者の困り

大前提＝子どもの支援には家庭環境の把握が不可欠

- ・介護職 ーなぜ、こんなにも手取りが少ないのか
ビジネスモデルの問題（研修費用は全て「借金」に）
「目的が正しくても人権侵害が起きやすい」(安里)
- ・学校のおてがみは読めません
- ・保護者の日本語
就労年齢の兄姉の日本語
学校と地域とつながり、地域で日本語を
- ・子にとっても親にとっても、しんどい家庭環境の変化
スクールカウンセラーや、心の拠り所
- ・夜間就労の場合の、子どもの居場所

6. まとめ

- 京都市では、フィリピン系のこども・若者は、これからも増えます
- 市民で共有したいこと、メッセージとしては・・・
 - (1) 多様な背景をもち、かつ日本を知る子どもたちは宝、私たちの社会にもたらす豊かさを大切に
 - (2) 地域を支える力、潜在的な力を発揮できるように
 - (3) 適切な、学び・進学・就職の機会を
- 例えば、どんな方法が？
- 高校進学率の実態把握、高校教育／入試の多様化の議論を
- 外国事情ではなく、となりの外国人と暮らす技としての「国際理解教育」カリキュラム 「やさしい日本語」の普及
- 京都の「市民力」「まちづくり」活動の文脈に、組み込む（日本語活動、居場所づくりなど）